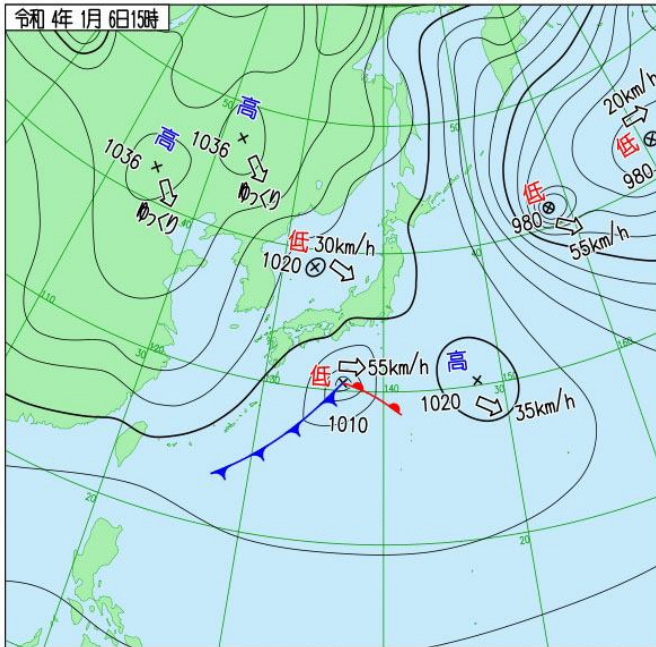


「東京の雪(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



2022年1月6日、東京に「大雪」をもたらしたのは、房総前線のような局部的な気圧の谷ではなく、南岸低気圧である。上図は、ちょうど雪が最も強く降っていた頃の地上天気図である。南岸低気圧は1010hPaと、低気圧としては優勢とは言えない。しかし、北から強い寒気が入り込んでいたので、大雪になったのだ。



上図は、大雪の翌日の衛星可視画像である。翌日の関東地方はよく晴れたが、関東南東部が真っ白に写っている。これは「雲」ではなく、「地上の雪」である。



正午を過ぎると、小石川も完全に雪景色になった。雪ほど、短時間で風景を劇的に変化させるものはない。写真も「金沢の街角」といえば、そのようにも見えるだろう。私はさっそく滑ってしまった。



降雪時の気温は氷点下にはならず、この日は「真冬日」にはならなかった。いわゆる「水分の多い雪」である。もともと雪の結晶の成分は100%水分なので、おかしな語だが、確かに「湿った雪」で地上物にくっつきやすい。ベランダの手すりも、すぐにこうなった。



写真は、窪町小学校の裏の道である。車があまり通らない道は、真っ白になるまでの時間が短い。